

石島会計メモ

平成30年3月号



中央区日本橋本石町 4-5-12
友泉本石町ビル 3階
石島公認会計士事務所
(03)3275-1311
発行責任者 石島慎二郎

会社の方針は誰が決める？

会社法はすべての会社に適用

大企業も中小企業も、すべての会社は会社法（昔でいう商法）に従う必要があります。その会社法において、株式会社の所有者は株主（出資者）であるとされ、その出資割合に応じて、会社経営に対し発言権を得ます。

では株主が会社経営をするのでしょうか。所有者である株主は大人数であることもあります。トヨタ自動車では株主数なんと68万人超！こんな大人数では何も決まらず会社が運営できません。そこで、株主はお金を出すけれど、経営自体は得意な人にお任せします。経営を任された人は、取締役として実務を行います。3人以上の取締役で取締役会を作り、合議で会社運営を進めていくこともあります。

株主と取締役のカンケイ

取締役は、株主が株主総会なる会議で集まり決定します。取締役の選任も解任も、株主総会において、株主の過半数の賛成で決定されるのが原則です。議決権を50%超（過半数）を持てば自分の思い通りに取締役を選びやすくなり、会社の方針決定に多大な影響力を持つことになります。ですから、この50%を超えるか超えないかは、経営支配をめぐって重要なポイントとなります。

たとえば、会社を立ち上げた親が「自分の後は兄弟仲良く事業をやってもらいたい」と考え、取締役である2人の子に50%ずつ平等に相続させるとします。ところが、経営方針の違いから兄弟が大げんか。「あいつを排除してやる！」とお互い息巻きます。

しかし、50対50の争いです。取締役の選任・解任には過半数が必要です。結局、話し合いで解決するしかなくなるのですが、感情的になっている2人は歩み寄りません。何も決まらないまま泥沼化、せつかく親が成長させてきた会社は親心むなしく衰退してしまった…そんな悲劇が起こりうるのです。



株主総会はいつ開催するのか

必ず行わなければならないのが、決算日から3か月以内に行う**定時**株主総会。決算内容の承認、役員の変更のほか、定額役員報酬の決定などがなされます。会社法においては3ヶ月以内とされますが、税金の納期限が2か月以内に到来するため、2か月以内に決算を固めて定時株主総会を行う企業は多いです。

この他、本店移転など臨時に決議を行う必要が出てきた場合、必要な招集手続きを踏むことで、**臨時**株主総会をいつでも開催することができます。

役員任期はどのくらいが適切か

役員任期として、取締役は2年以内、監査役は4年以内が基本です。取締役は2年よりも短くできますが、監査役は4年よりも短くできません。一方、条件を満たせば、取締役も監査役も最長10年以内の任期まで延長することが可能です。

任期を長くすれば改選の手間を省けますが、長期間役員が固定されます。長期的な経営ができる一方、中だるみするおそれもありますので、経営を引き締めるため、改選機会を適度に設けるバランスも重要です。

どちらがエライということはないけれど

株主と取締役では立場が異なります。いずれも会社に深くかかわるポジションにいるわけですから、会社発展にとっては、良好な関係が望まれます。株式の異動、役員の変更は慎重に対応しましょう。



石島会計新聞

石島、東京マラソンで新聞に載る

2月25日、東京マラソンが開催されました。参加にあたり「なぜ走るのか」を記入して申し込むのですが、私は事業承継したタイミングであり、父である会長・石島洋一の引退レースとして、スタートからゴールまで一緒に走る意気込みを一生懸命書きました。（なんと親孝行なことか！）その甲斐あってか、なんと読売新聞の取材依頼を受けました。しかし前報のとおり、会長は欠場を発表（なんと子不幸なことか！）。一時は取材中止になりかけましたが、最終的には翌日2月26日の朝刊に掲載されました。載っても小さな記事だろう、そう思って見てみると、大々的に取り上げられていてビックリです。一緒に走ることができなかったのは残念でしたが、とても良い思い出の大会となりました。



（文 石島慎二郎）

東京マラソン2018に出場しました！



(スタート地点の様子)

(文章：芦原 衛)

今月号は、芦原より東京マラソン2018についてのお話をさせていただきます。

今回は、team ishijima のメンバー4人で参加予定でしたが、会長は年末からの長引く咳による練習不足で欠場となり、3人での出場となりました。出場する3人も、所長は足の痛みによる練習不足で痛み止めを飲んでの出場、元所員の加藤は定年後、練習そっちのけで遊び歩いていたようなので、割と順調に練習を出来たのは芦原だけ

でした。それでもふくらはぎ痛に悩まされ、少し休む時期もありました。

ちなみに team ishijima は、会長・所長・加藤・芦原の4人で構成されており、実績はゼロ、練習は各自にお任せ、決して無理しないをモットーに、日々活動しているので、これといった活動は一回もしていません！笑

★今回の目標

東京マラソンは今回で5年ぶりの2回目です。最近、セキュリティ対策の一環として、リストバンドを前の日から手に付けられるなど、5年前とはちょっと変わったなーと思いました。ちなみに、参加記念Tシャツは毎年デザインが変わりま

す(裏面写真)。

最初に出場した時は無事完走できるだけで良かったのですが、今回はフルマラソン3回目？ということもあって、サブ4(フルマラソンを4時間以内に走る事)を目標に練習してきました。それがどのくらいのレベルかというと、ランナー全体の20%~30%ほどしか達成できないレベルです。市民ランナー憧れの的。サブ4を達成する人の中には、本格的にマラソンクラブなどに所属して練習している人も多いので、自己流での練習内容やそういう人との練習量の差も不安でした。



(セキュリティリストバンド)



(2018Tシャツ)

★いよいよスタート！

そして当日、体調は万全で、練習内容や練習量以外の不安は何もありませんでした。順調に準備を済ませて、いよいよスタート地点のHブロックに向かいました。途中、トイレがかなり混んでいて遅くなり、Hブロックまでたどり着かないうちに後方からのスタートになってしまいました。

個人的には、最初速く走って最後に抜かれるよりは、最初ゆっくり走って最後どんどん抜いていく方が好きなので、かえって後方からのスタートで良かったのですが。

★足に異変が...

スタートしてからは割と順調で、25kmぐらいまでは快適に走れました。ところが、それから少しずつ足が重くなり始めました。それでも30kmまではなんとかペースを落とさないで走れたものの、**そこからは足が上がらなくなり、徐々にペースが落ちていくのがわかりました。いわゆる30kmの壁**です。走り始めて30kmを超えてくると、エネルギー不足や筋力不足により、足が動かなくなる現象です。

37km地点を通過して残りあと5km。時計を見ると、4時間を切れるか切れないかの瀬戸際であることがわかりました。もう時計を見るのをやめ、前だけを見て走りました。

★結果は！？

ついにゴール！42.195kmを走り終えて、結果は、ネットタイムで**4時間00分40秒！**なんとも悔やしい結果となりました。ゴールした瞬間は、茫然としてその場で立ちすくんでしまいました。あと40秒！なんとかならなかったのか...。**無念！その帰り道、よし！もう一度やろう！**リベンジを決意しました！

なお、所長は足の痛みを我慢しながらも**無事に完走**しました。加藤については、本人の名誉のために報告は控えさせていただきます。

以上、東京マラソン2018のお話でした。



(完走メダル)

応援に駆けつけてくださった方々、本当にありがとうございました。